

合理的配慮の提供事例報告書【小学校】

事例の概要

通常の学級に在籍する自閉症スペクトラムの診断のある2年生のA児に対して、通常の学級での学びを支援している事例である。

A児は集団の中や学習において、周りの刺激への調整が困難で、集中力が持続せず、じっくり考え、課題に取り組むことが苦手である。また、目に入るものが気になり行動に時間がかかる。こだわりが強く、急な変更にも弱い。

このようなA児の特性や状況を踏まえたうえで、担任や支援員を中心に、A児が学習に取り組みやすいなどの環境づくりをするとともに、通級による指導を受けながら学校生活での困難さを軽減できるよう支援を行った。

1 対象児童の障害種

自閉症

2 障害の程度

※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か

3 在籍状況

小学校・通級による指導

4 学年

小2

5 対象児童の実態

A児は、2年生で通常の学級に在籍している自閉症スペクトラムを有する児童である。市の5歳児発達相談等を経てサポートファイルを作成している。

小学校入学についても事前見学や保護者面談、学級担任との顔合わせ等を行い、A児が安心して入学できる体制を整えた。

学習面では、問題量や周りからの音声刺激が多くなると、集中できず課題に取り組めなくなり作業が停止してしまう。

生活面では、睡眠の質がよくないためか、覚醒が低い時がある。一斉指示の中では、他の児童と同じ行動がとりにくい。食事へのこだわりが強く、食べる量を減らしているが、時間内に食べることができない。

6 対象児童についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

A児は、在園していた他市での発達相談で保護者の希望により発達検査を実施し、療育機関での療育を受けていた。その後、本市の子ども園に転園し、継続して市の発達相談を受けていた。

入学にあたり、園を通じて保護者と面談や入学後の支援について話し合いを行った。保護者からは、通常の学級での支援員による個別対応や通級による指導の希望があった。

申し出を受け、校内支援委員会を持ち、A児が集中して学習に取り組めるよう教室での机の配置や掲示物等、環境づくりや授業中の課題提示の仕方、支援員による学習支援などを検討し、保護者に伝えて合意を得ることができた。

また、通級による指導については、校内での優先順位をつけ、終了児童が出た時点で対象児童が指導を受ける体制を整えた。

7 基礎的環境整備の視点と概要

【基礎2】専門性のある指導体制の確保

支援員による学習支援
通級による指導における専門的な指導

【基礎3】個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導

サポートファイルの作成により、進路上での切れ目のない指導が可能になっている。
個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、関係者で共有するとともに、学期ごとに評価・検討を行い、短期目標を設定するとともに、指導内容の見直しを行っている。

8 合理的配慮の観点と概要

合理①－1－1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

授業で集中して学習することの困難さに対する配慮として
A児は、集団の一斉指導において、集中できず課題に取り組みにくい場面があった。そこで、学びやすい教室環境にすること、1日のスケジュールや授業の流れを提示すること等「授業のユニバーサルデザイン化」の取組を進め、A児が集中しやすくなるよう改善した。
また、問題数の多いプリントなどは問題数を減らし、負担感を減らす工夫を行った。
黒板を書き写すことが苦手なので、様子を見て困っているときには担任や支援員が必要なことを読み上げ、ノートに書かせるようにしている。
学習内容の理解や心理的な安定への配慮として
黒板を書き写すことが苦手である。A児が学習内容をより理解しやすいよう、担任や支援員が問題を読み上げノートに書くなど、安心して課題に取り組めるようにした。
また、放課後の補充学習を利用して個別指導を行い、A児が自信をもって取り組める量と時間を設定し、課題に取り組ませるようにした。

合理②－1 専門性のある指導体制の整備

A児は、2年生から通級による指導を受け、社会性やコミュニケーションスキルの獲得を行っている。人との距離感の取り方や関わり方について目標を立てて指導を受けている。
定期的な保護者面談で、学級担任や特別支援教育コーディネーターと共に指導体制について合意形成を行っている。

9 成果と課題

<成果>

A児への支援体制については、校内支援委員会を機能させ検討を重ね、全職員に共通理解を図るなどチームとして取り組むことができた。

一斉指導では、「授業のユニバーサルデザイン化」による支援や支援員による声かけにより、A児が授業に集中できる場面が増えてきた。また、放課後の個別指導で教科指導を進めることができた。

2年生から通級による指導を受け、コミュニケーション力やソーシャルスキルを養うことができた。

<課題>

A児の支援については保護者との合意形成をしながら取り組んでいるが、より連絡を密にし連携を行い、家庭の協力を求めることが必要である。

支援がその学年だけに終わらないよう、個別の教育支援計画や個別の指導計画、サポートファイル等を活用して引き継ぎを行い、切れ目のない支援を継続していく必要がある。